

【災害派遣福祉チーム員 登録研修】

4.演習

**一般避難所での災害派遣福祉チームの活動
～活動に必要なのは何か？**

● ● 県

災害福祉支援ネットワーク事務局

(〇〇災害支援センター、災害派遣福祉チーム事務局 など)

演習の前に

この演習では、ある避難所で避難生活を送る方に対し、災害派遣福祉チームとしてどのように対応していくのかを考えていただきます。

- この検討結果には、正解も不正解ありません。
- 先ほどの講義で知ったことや「ディスカッション」で考えたことに基づいて、登場される方々の二次被害の防止に取り組んでください。
- グループワークのメンバーは、地域も異なり、普段の仕事も違う人たちで構成されていますが、実際の災害派遣福祉チームも同様に、多職種で構成される可能性が高いと考えられます。
- 違う能力・経験を持つ人たちで構成されることは、チームの強みでもあります。種別にこだわらず、生活を支える専門職として積極的に発言すると共に、互いの発言も尊重し、一緒に考えてください。

【留意して頂きたいこと】

- 配慮を必要とするのは誰なのか？
- 災害発生からの時間経過と福祉ニーズは関係があるのか？
- 確認された福祉ニーズに、どうやって災害派遣福祉チームは対応するのか？

被災状況

- 月●日の豪雨により堤防が決壊、広い範囲で浸水が生じた。住民の多くは小学校体育館のA避難所での避難生活を余儀なくされている。
- ピーク時のA避難所には1,000人以上が避難していた。発災後3日経った現在、滞在する避難者は500人程度となったが、今も地域では最大規模の避難所である。
- A避難所には発災翌日よりDMAT、保健師が巡回で入った。災害派遣福祉チームも発災2日目よりA避難所で活動を開始、医療・保健の専門職と連携した支援を行っている。
- 発災後3日目となり、大分水も引いた。可能な人は自宅の片付けに出かけるようになり、昼間に避難所内にいる人は減った。昼間に避難所内にいる人たちは、片付けには行かない(行けない)高齢者や子どもづれの親子等しかいないようである。

※写真はイメージです



- A避難所に避難してきている人から「隣のスペースの●●さんの家族でトラブルが起きているようだ」と保健師に相談があった。「一緒に留守番をしている孫(男)がおばあちゃんを突き飛ばし、転ばせてしまっていた。その前後でも何度か口論しており、物を投げたりもしていたらしい」そうである。
- 前日までに把握していた世帯の基本情報は、次のとおりである。

●●家

【家族構成】祖母(77歳)、父(45歳)、母(40歳)、孫(男・14歳)

【被災状況】戸建住宅の2階まで浸水。

【その他】発災以前より祖母には軽度の認知症が認められていたが、特に支援等が入っていなかった。しかし、環境変化からか、前日より徘徊症状が出ており、避難所内で迷子になる、トイレから自分の避難スペースに戻れない等となっている。

- そこで災害派遣福祉チームは祖母と孫、家族から話を聞いた。

孫

おばあちゃんのことを嫌なわけじゃない。お父さんたちが家の片付けに行く時におばあちゃんを心配していたけれど、ぼくがいるから大丈夫だと言ったんだ。

物忘れはあったけれど、おばあちゃんはずっと畑をやっているし元気だ。でも今は、何度も「炊き出しの準備はできたか」とか、避難所の中で迷子になって目が離せない。ぼくも受験も近いし、友達にも会いたい。

祖母

家はどうなってしまったの。おじいさんの仏壇もそのままで心配だけど、息子や嫁は出かけてしまっていて、孫もちゃんと答えてくれない。ここは落ち着かないし、知っている人も、話す人もいなくて寂しい。どこも同じように見えて、迷子になるから歩き回るなと言われている。床は固くて脚も痛い。食事も食べづらいが、文句を言うなと怒られる。

父母

認知症の傾向があると言われていたが、今まで母に大きな問題は起きていない。息子は受験を控えていて、気も立っているのだろう。でも、2週間位で帰れると思うから、もう少し頑張っしてほしい。

まず、各自で考えてみましょう。【個人作業】

現在の祖母の課題・問題点は何でしょうか。

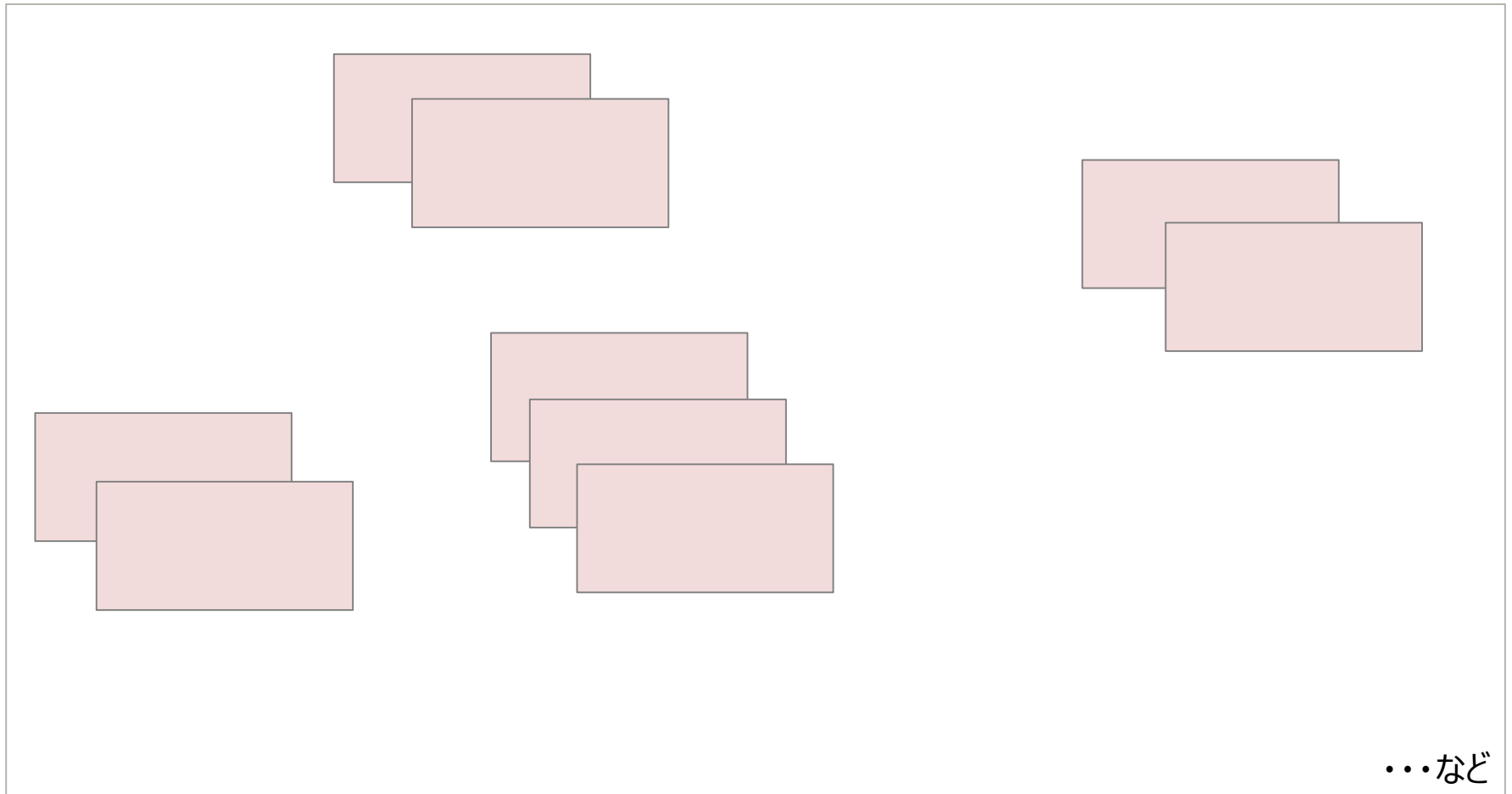
まずは、どのような福祉ニーズがあるかという視点で考えてみましょう。(手段ではない)

各自考え、付箋に書きだしてみよう。

1枚のカードには一つの事だけを書いてください。

(何枚でも可、1人5枚以上は書いてください)

各自が考えたことを発表しましょう。似たような内容は、グループにまとめ、新たに気づいたニーズは書き足して下さい。
【グループ作業】



...

もう一度、各自で考えてみましょう。【個人作業】

あげられた福祉ニーズに対し、
災害派遣福祉チームとして
どのような支援・提案が考えられるでしょうか。

各自考え、付箋に書きだしてみよう。
1枚のカードには一つの事だけを書いてください。
(何枚でも可、1人5枚以上は書いてください)

災害派遣福祉チームだけではなく、他の専門職、地域の力を借りることも考えよう。

福祉ニーズに対し、どのような支援等を考えたか各自発表
しましょう。新たに気づいた支援があれば書き足して下さい。
【グループ作業】

A workspace for group work, consisting of 15 overlapping rectangular boxes arranged in a scattered pattern. There are 7 blue boxes and 8 pink boxes. The boxes are intended for participants to write down their responses to the prompt above.

...など

まず、各自で考えてみましょう。【個人作業】

現在の孫の課題・問題点は何でしょうか。

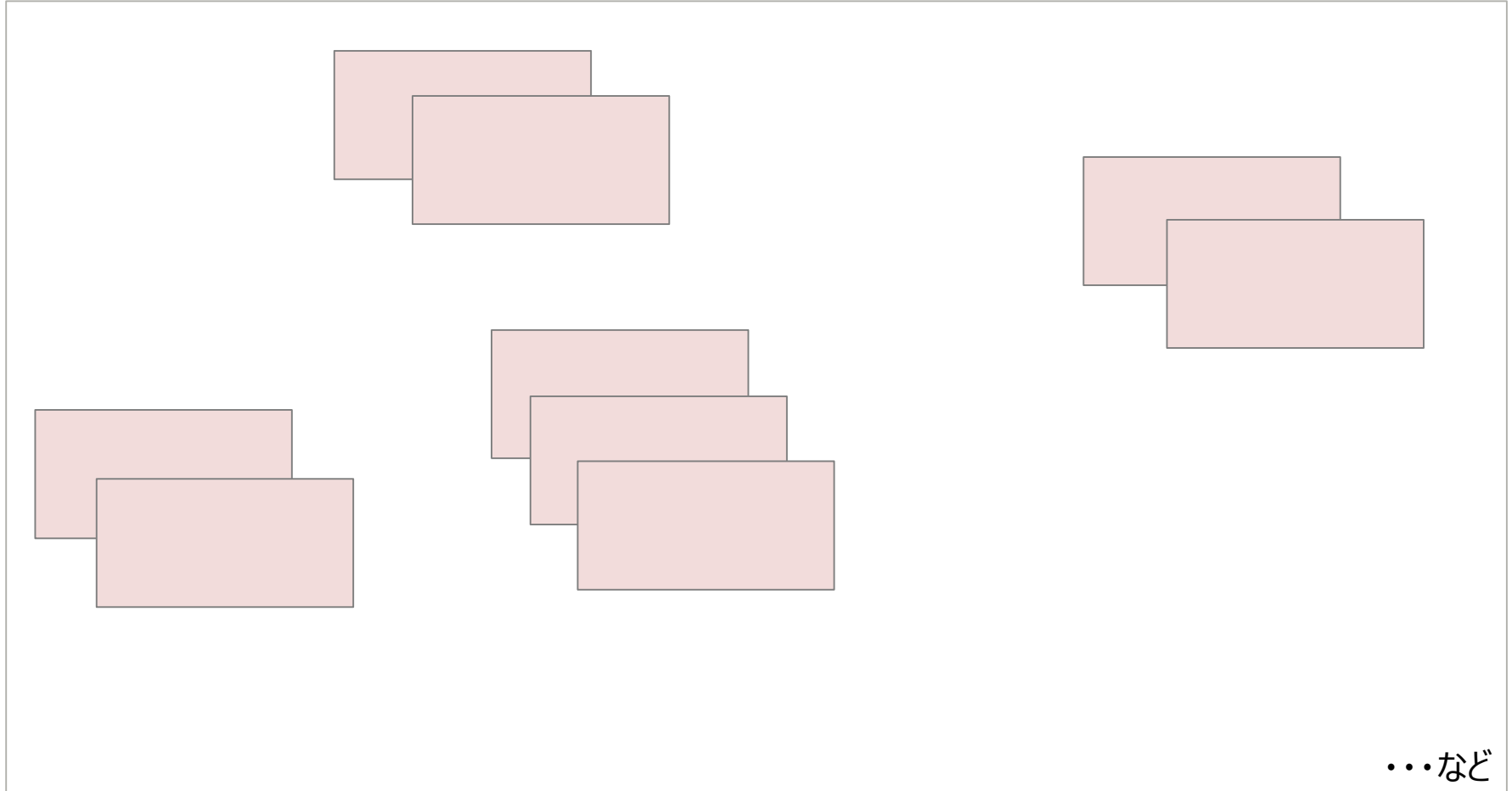
まずは、どのような福祉ニーズがあるかという視点で考えてみましょう。(手段ではない)

各自考え、付箋に書きだしてみよう。

1枚のカードには一つの事だけを書いてください。

(何枚でも可、1人5枚以上は書いてください)

各自考えて発表しましょう。似たような内容は、グループに
まとめ、新たに気づいたニーズは書き足して下さい。



...

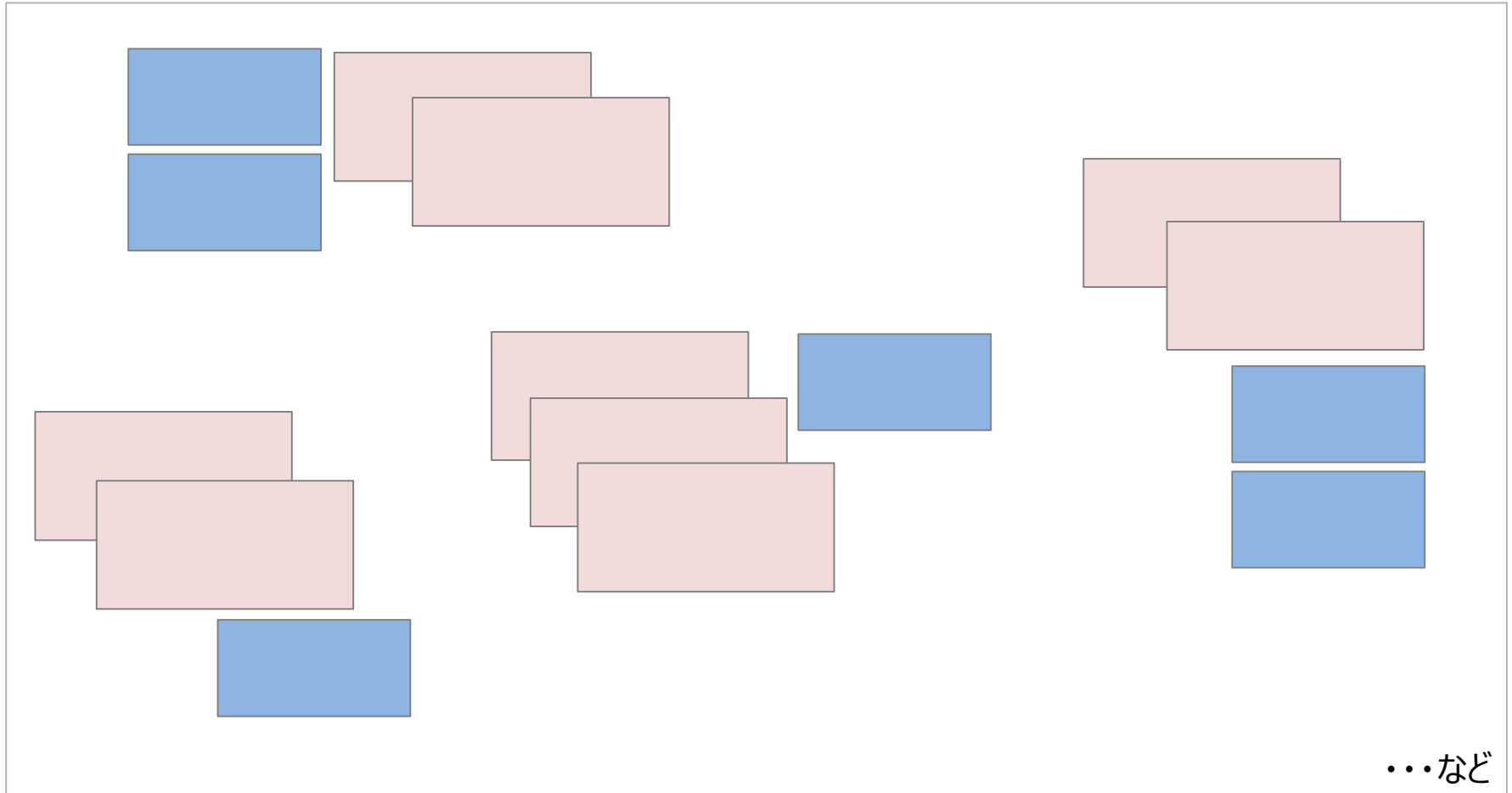
もう一度、各自で考えてみましょう。

あげられた福祉ニーズに対し、
災害派遣福祉チームとして
どのような支援・提案が考えられるでしょうか。

各自考え、付箋に書きだしてみよう。
1枚のカードには一つの事だけを書いてください。
(何枚でも可、1人5枚以上は書いてください)

災害派遣福祉チームだけではなく、他の専門職、地域の力を借りることも考えよう。

福祉ニーズに対し、どのような支援等を考えたか各自発表しましょう。新たに気づいた支援があれば書き足して下さい。



...

・・・その後の祖母と孫

- 保健師も交えて検討を行った結果、祖母は見守り対象であるとして情報を共有し、対応にあたることにした。**他職種連携**
- 避難所管理者に助言した結果、避難所管理者はトイレの場所がよくわかるよう、誘導の看板を立て、避難スペースのブロックもわかりやすいよう工夫をした。**環境改善**
- 校長に相談したところ、翌日から近くの避難所で空き教室を利用した補習が開かれることを教えてもらい、孫は朝から昼過ぎまで通うことにした。**他資源の活用**
- 孫が不在の間、祖母の様子は災害派遣福祉チームが状況を確認するようにした。チーム員と父母、隣の家族と話をした結果、誰も家族がいない時の昼食は、運んでくれることになった。**地域の力**

人と話をしたり、補習に通いだしたことで、孫の様子も少し落ち着いた。祖母も環境に慣れ、他の避難者とも話をするようになった。その後、チームは避難所内にサロンを開設したため、祖母はお茶を飲みに行くようになり、顔見知りも増えた。迷子になることも減り、徘徊の頻度も減った。

- 発災からしばらく経ち、市社協や地域包括支援センター等の地域の福祉資源も動きが見えてきた。
- 祖母たちの家は大分片付いたが、浸水で基礎が駄目になっていることがわかり、父母は借り上げ仮設住宅に応募することとした。
- 借り上げ仮設住宅は、以前の家からも、今の避難所からも離れているマンションである。マンションに住むのは初めての経験である。

祖母

息子がマンションに引っ越すと言っているけれど、せっかく知り合いもできて仲良くなったのに、さびしいね。●●町に行けらしいけれど、知っている人も全然いない。

私はずっと畑をやっていたから、近所の人たちにもおすそ分けをしたりしていたのだけれど、マンションだと畑もつukれないだろうね。私のトマトはおいしいと評判で、喜ばれていたんだよ。

うちは息子夫婦とも共働きだし、昼間はわたし一人だね。どう時間を使えばいいんだろう。今の方が楽しいよ。

チームで考えてみましょう。

これからの祖母の課題・問題点は何でしょうか。

まずは、どのような福祉ニーズがあるかという視点で考えてみましょう。（手段ではない）

チームで話をしながら「福祉ニーズと福祉支援の整理」シートに書きだしてみよう。

福祉ニーズに対し、災害派遣福祉チームとしてどのような支援等が考えられるでしょうか。同様に書き出してみましょう。

「福祉ニーズと福祉支援の整理」シート	
チーム員名： _____	
これからの祖母の課題・問題点	災害派遣福祉チームとしてのアプローチ
	→
	→
	→
	→
	→
	→
	→
	→

災害派遣福祉チームだけではなく、
他の専門職、地域の力を借りることも
考えましょう。

- 発表はポスターセッション方式を用いて、全てのグループが各テーブルで一斉に実施します。
- 各グループで発表者 1 名をテーブルに残し、その他のメンバーは他グループのテーブルに一人ずつ散らばり、発表を聞いて質疑応答に参加します。
- その際、後で自分のグループに戻って情報共有をしますので、必ずメモを取りながらセッションに参加して下さい。
- それでは、メモを持って移動してください。
- 発表のお礼を言って自分の席に戻して下さい。

- 自分のテーブルに戻り、自分のグループの発表に対する質疑内容に関して確認し、また他グループの発表で特に興味深かった内容を共有します。
- 発表や質疑を通じて、新たな視点や具体的な内容について気づきがあれば、付箋紙やマジックで加筆して下さい。

この演習で考えて頂きたかったこと

- **配慮が必要なのは誰なのか**
→目に見える「要配慮者」だけではない。課題に気づく力、課題を考える力をつけましょう。
- **災害発生からの時間経過と共に、ニーズも変わっていく**
→同じ人であっても、避難生活開始直後、安定期、仮設住宅への移行期等、時間経過と共に課題は変わっていきます。
- **避難所には多様な課題・幅広いニーズがある**
→避難所は地域の縮図。だから、チームで対応する意味がある！
さらに、災害派遣福祉チームだけではなく、保健・医療との連携、地域や避難所内のコミュニティの力も生かすことができれば、多様な課題や幅広いニーズにも対応できるようになります。
- **正解は一つではない**
→皆で考えることで、よりよい支援ができるはずです。
また、正解を求めることも大事ですが、「ベター」も大事。

そして、活動で大事なことは、二次被害の防止、被災地域の自立性の尊重

今後の訓練・研修では・・

- 今日の演習は、事例の中から多様な課題やニーズに気づき、色々な方法やそれぞれの知恵で支援を考えるためのものです。
- 複数の可能性を考えることで、視野を広げることが大切です。
- 今後は、災害派遣福祉チームの出動からの動きを確認し、実際にアセスメントを試してみる、他職種らと協議をする訓練も行われます。



- **緊急性や優先度を考えて取り組んでいく場面もありますが、その時も「二次被害の防止と被災地域の自立性の尊重」を心に、今日学んだことを活かして取り組んでいきましょう！**
- **そして、災害時にこうした支援がうまく行われるよう、普段から自分たちの地域、事業所にみんなで働きかけていきましょう！**